

<NEXCO中日本 金沢支社の冬期交通確保への主な取り組み>

◆雪氷対策作業の人員および車両体制

NEXCO中日本 金沢支社では、2014年度の冬期交通確保に向けて定期的な除雪作業や路面凍結の防止作業などをおこなうため、次表に示すように雪氷車両 209 台、雪氷対策作業従事者約 650 名の現場体制で雪氷対策作業にのぞみます。

この体制により、除雪作業は積雪 5 cm 毎に 1 回を目安とし、インターチェンジ区間によって 1 時間に 3 cm から 8 cm 程度までの降雪に対応することができます。これを超える降雪の場合は、保全サービスセンター間相互の応援派遣などにより、対応に努めてまいります。

		敦賀保全 サービスセンター		福井保全 サービスセンター	金沢保全 サービスセンター	富山保全 サービスセンター		金沢支社 全体
		北陸道	舞若道	北陸道	北陸道	北陸道	東海北陸道	
雪氷対策作業の従事者人数		約140人	約70人	約100人	約110人	約160人	約70人	約650人
除雪	除雪トラック	18台	11台	17台	18台	24台	11台	99台
	モーターグレーダー	—	—	—	2台	—	—	2台
凍結防止剤散布	湿塩散布車	2台	3台	3台	4台	7台	3台	22台
	溶液散布車	2台	1台	1台	2台	1台	1台	8台
	小型散布車	2台	—	5台	4台	4台	1台	16台
排雪	ロータリー車	3台	2台	4台	4台	6台	3台	22台
	トラクターショベル	12台	6台	8台	5台	5台	4台	40台
雪氷車両合計		39台	23台	38台	39台	47台	23台	209台

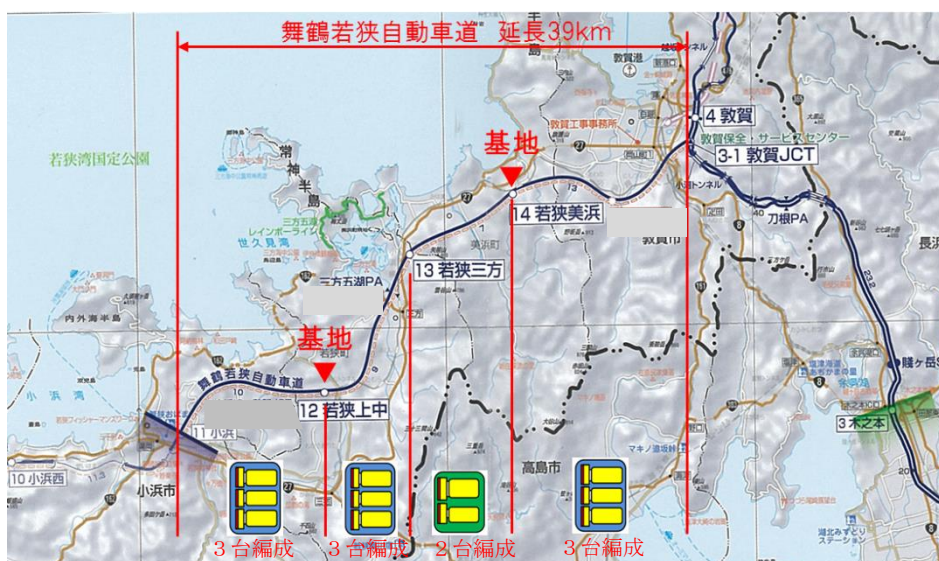
◆舞鶴若狭自動車道の雪氷対策

今年 7 月 20 日に開通した舞鶴若狭自動車道 小浜インターチェンジから敦賀ジャンクション間は、今回、初めての冬期を迎えることになり、若狭美浜インターチェンジと若狭上中インターチェンジの敷地内に雪氷車両基地を設け、合計 11 台の除雪トラックで降雪時の交通を確保します。

また、他の雪氷車両として、凍結防止剤散布車 4 台（湿塩散布車 3 台、溶液散布車 1 台）、ロータリー排雪車 2 台を配備します。

舞鶴若狭自動車道の雪路面安全対策として、トンネルの出入り口付近および敦賀ジャンクションのランプウェイに、積雪路面での交通事故を削減するためロードヒーティングを設置しています。（延長：約 4.0 km）

また、本線登り勾配が 3.5% 以上の区間では、登坂不能車両の発生抑制のためロードヒーティングを設置しています。（延長：約 1.9 km）



ロードヒーティング概要図

◆定置式溶液散布装置などによる登坂不能車の発生回避

北陸自動車道 敦賀IC～今庄IC間の急な登り坂区間では、定置式の溶液散布装置と散水消雪装置を全体で約3.3km設置しており、降雪時には凍結防止の溶液や地下水を散布して雪道で登坂できない車両の発生を抑制します。



◆監視カメラによる交通障害の早期発見

金沢支社管内の北陸自動車道、東海北陸自動車道では、降雪状況、路面状況、交通障害を把握し早期の対応を図るために、監視カメラを130基設置しています。

それにより、本線登り坂勾配が3%以上の区間の全てで監視可能とし、雪道で登坂できない車両の早期発見に努めています。立ち往生した車両を発見した場合には、現地に状況確認に向かいます。

また、新規開通した舞鶴若狭自動車道では、34基（トンネル内を除く）の監視カメラを設置しており、ほぼ全線の監視が可能となっています。



舞鶴若狭自動車道の監視カメラ（CCTV）

◆塩分濃度管理による凍結防止材散布

金沢支社管内の全ての保全サービスセンターに、路面上の塩分濃度と路温を走行しながら測定できる装備を道路巡回車に試行導入しました。

GPS情報を持つ計測データは、携帯電話回線で保全サービスセンターに構えた雪氷対策室のパソコンに送信され、塩分濃度を確認することができます。

